

シューマン《ピアノ協奏曲 イ短調》作品 54 の
2台ピアノ版について

Schumann and Brahms : Works for 2 pianos

Schumann Piano Concert a minor Op.54

後藤友香理

Yukari Goto



コンチェルトのオケパートをピアノで代用することは決して珍しいことではありません。メンデルスゾーンの自宅には私設の管弦楽団があったそうですが、私たちはそうそうそのような環境にありませんから、普段の練習やレッスン、学校の試験等で協奏曲を勉強する際にはもっぱらピアノでオーケストラのパートを弾いてもらうことになります。逆に、私たちピアニストが協奏曲のオケパートをピアノで伴奏することも日常茶飯事です。学生時代、別の楽器の友達の伴奏であらゆるコンチェルトのオケパートをピアノで弾いてきましたが、コンチェルトのピアノ伴奏はあくまでオケの「代用」であり、室内楽や二重奏など初めからピアノを想定して作曲家が書いたものとは根本的に違います。本来オーケストラで演奏されるべき音楽を都合上ピアノに移し替えたものは、とても弾きにくい割に演奏効果が上がらない場合が多いのです。よって、オーケストラをバックにコンチェルトを弾く場合で、オ